

山下 純一

岡崎市公衆衛生センター 副センター長（兼）乳腺診療統括部長

女性が人生の後期 3 分の 1 を健やかに快適に過ごすために

女性のライフサイクルにおいて、閉経以降の人生が女性の生涯の 3 分の 1 以上を占めるようになりました。女性ホルモンの低下に起因する更年期の障害に対して、ホルモン補充療法（HRT）は有効な予防、治療の戦略になっていますが、その一方で、HRT により乳がん発生が増加する可能性が危惧されています。

本研究の現時点の結果から、HRT を受けている女性群の乳がん発症率は、受けていない女性群に比し高率です。また、HRT 中に発見される乳がん女性は、痩せた人に多いという結果が得られています。さらに、HRT 施行中の乳がんは、比較的小さい腫瘍径で発見されています。HRT 施行中乳がんを発見するための modality としては、マンモグラフィより超音波検診が有効です。女性ホルモンの投与により乳腺が不均一高濃度状態になるため、マンモグラフィによる発見が困難になるのではないかと推測しています。また、効果不明のまま漫然と長期間にわたって HRT を行い、その後に乳がんを発症するというような、医原性の苦痛を与えている症例も存在しました。このことは、HRT の効果そのものについても、実態調査が必要であることを示唆しています。